

2015年6月にクロアチア・ザグレブで行われた WTOC2015の日本代表選手ならびにスタッフからのコメント

2015年6月 クロアチア・ザグレブ
世界トレイルオリエンテーリング大会

チームオフィシャル 茅野耕治

2015年に向けた準備

WTOC2014 (イタリア) で、準備の大切さを痛感したため、急遽2014年9月のプレ大会に参加することにしました。極めて日本的なトレインと、微妙なZ(ゼロ)コントロールを排除したコース設定方針を体感できたのは、有意義だったと思います。

直前プレ大会

(ECTO2015 第5戦、第6戦)

WTOC本番直前に、ヨーロッパ・カップを兼ねたプレ大会が用意されました。

WTOC2014 (イタリア) では、現地トレインに慣れたところで大会が終わってしまった感じだったので、早く現地に適応するために参加しました。林の中にも入ってトレインを体感する意味で、Foot0のイベントにも参加しました。その効果は、発揮されたと考えます。

直前プレ大会の3日間は、ザグレブから90kmほど離れた場所だったため、WTOCの運営者に日本チーム10人の輸送をお願いしました。WTOCを運営した地域クラブのVIHORが2台のミニバンを運転手付きで用意してくれました。運転手の1人は、実はWTOCパラリンピッククラスの選手で、すごい結果を出すのですが、この時は知る由もありません。

開会式(6月23日)

雨のため、市内の公園で行われるはずだった開会式は、宿泊先のホテルの宴会場で行われることになりました。国旗を持って入場し、伝統衣装の人の歓迎を受け、なぜか空手の演武があったりと、華やかな開会式でした。参加国数26か国、選手数123人は、過去最大の世界選手権大会とのことでした。

裁定委員

スウェーデン、ロシア、そして日本

から私が裁定委員に指名されました。結果的には、運営者の大会準備が良かったこともあり、提訴は1件もありませんでしたが、毎回のチーム・オフィシャル・ミーティングに出席したりと、忙しく過ごしました。

Pre0 1日目(6月24日)

雨で地面がドロドロの中の競技となりました。パラリンピッククラスは、さぞ難儀だったと思います。前半15問、後半11問の計26問のコースと、スタート前、フィニッシュ後の計2か所各3課題のタイムコントロールで競われました。制限時間120分(パラリンピッククラスは150分、車いすは180分)のうち、前半で多くを消費した選手が多かった模様です。WTOCの全ての選手がスタート後、15分ほど空けて、併設大会が始まりました。1つ目のTCがParaクラスのものだった以外、本戦と同じコースです。正解率10%程度だった2問を含めて、計3問間違え、2位で1日目を終えました。

Temp0 予選(6月25日)

快晴の強い日差しの中、Temp0の予選が行われました。8ステーション各4課題のコースでした。超難問は少ないコースセットだったと思います。小泉、山口の両選手が予選通過。初出場の岩田選手は、数秒及ばず、37位でした。

(36位までが予選通過)前日同様、WTOCの全ての選手がスタート後、15分ほど空けて、本戦と同じコースで併設大会が行われました。最終ステーションは、周りに観客がいる状況の中、4課題全てがZ(ゼロ)が正解で、半分の2問間違っていました。本戦の時間帯によっては、陽射しの影の影響でフラッグが見えにくい状況があり、不公平だったということで、このステーション全体がキャンセルとなりました。これも幸いし、併設一般クラスは、2位となりました。この日問題になったのは、チェコの3選手が、スタート地区で旧地図、Googleマップを見て失格になったことと、特定の失格者は出なかったものの、トレイン内に複数のオフィシャルが立ち入った(駐車場からスタート地区への移動ルートも一部競技者の移動ルートになっていた)こと、複数の競技者、オフィシャルが電源を切った携帯電話をスタート地区に持ち込もうとしたことでした。これについては、翌日全ての参加者に向けて、警告文が

出されました。

IOFトレイル0コミッション

年2回のミーティングのうち1回を、世界選手権の時に実施しています。2017年から2019年までのWTOCの開催国(2017年:リトアニア、2019年:ポルトガル)が承認され、イベント・アドバイザのアサインが検討されました。また、来年から正式種目になるTrail0リレーのルールについても検討を行いました。IOFの事務局がフィンランドからスウェーデンに移ったことから、細かい書類の修正事項が残っています。

Temp0 決勝(6月26日)

ザグレブ郊外のゴルフ場にて、7ステーション各5課題のコースで決勝が行われました。予選36位の選手からスタートする形式で、第6、第7ステーションは、フィニッシュ地区から観戦できるようにしていました。さらに、これら2か所のステーションでは、選手の回答の正解/不正解を、リアルタイムで観客に示してくれました。フィンランドのAntti Rusanen選手が優勝。2014年のヨーロッパ選手権をゴルフ場で開催したポルトガルの選手が、6位、7位に入りました。決勝終了後、Pre02日目のモデルが行われ、ゴルフ場のフェアウェイを歩くコースだということがわかりました。(グリーン、フェアウェイの境界は、地図に表示されていない)



Pre0 2日目(6月27日)

前日と同じゴルフ場にて、前半16問、後半10問の計26問のコースと、スタート前、フィニッシュ後の計2か所各3課題のタイムコントロールで競われました。(フィニッシュ後には、団体戦のタイムコントロール:1か所3課題もありました)オープンクラスでは満点が8人、1問間違えが15人と、タイムコントロール勝負になりました。イタリア

の Michele Cera 選手が、1 日目のリードを守って優勝。プレ大会の間、運転手を務めてくれた Ivica Bertol さんが、パラリンピッククラス 2 日目満点で 1 位。2 日間総合でも 2 位と銀メダルを獲得しました。WTOC の全ての選手がスタート後、15 分ほど空けて、本戦と同じコースで併設大会が行われました。(タイムコントロールは、2 か所ともパラリンピッククラスものを実施) フェアウェイの真ん中の 1 間を間違え、この日は 3 位。2 日間総合では 2 位となりました。



バンケット

夜 8 時から真夜中までバンケットが行われました。バンドの演奏やマジック・ショーがあり、楽しく過ごしました。

リレー(デモ)

2016 年から正式種目となる Trail10 リレーのデモンストレーションが行われました。課題を変えた 3 種類のコースを 3 人が解いていきます。(ルール上は、b)形式と呼ばれています) 11 あるコントロールは、任意の順で回れますが、制限時間(3 人で 2 時間)が厳しく、走らないと間に合いません。日本からは、ロシアの 1 人を加えて、3 チームが出場しました。

各レグのコース(Pre0)が終了後、Temp0 があるのですが、47 チームも出場したため、3 走終了時に大渋滞。結局、3 走の Temp0 は中止となり、結果集計が終わらないまま、雨が降り出し、お開きとなりました。前日まで問題の無かった位置説明、正解表にミスがあり、第 8、第 11 コントロールはキャンセルとなりました。b)形式は、前走者のコントロールカードの消し込み処理等が無いいため、運営は簡略化できることがわかりました。(ちなみに、2016 年は a)形式で行われます)

大会運営

地域クラブの VIHOR が、家族総出で運営にあたっていました。デンマーク、フィンランドからの応援も得て、とても上手く運営できていたと思います。Temp0 決勝でのビジュアル・コントロールも良かったですし、大会会場での成績掲示より先に Facebook に成績公開してはいけないというルールが必要だという意見が出るほど、メディアを積極的に利用していました。

来年に向けて

2016 年 WTOC はスウェーデンで、Foot0 と同時開催されます。(8 月下旬) テレインのタイプ、コースセットの仕方は、今年と 180 度異なります。既に 5 月にプレ大会が開催され、情報を入手していますので、1 年かけて準備したいと思います。来年は、Foot0 と Pre0 の併設大会が予定されています。(Temp0 の併設大会は無し。Pre0 の併設大会は、一斉スタート) 将来の代表選手には、世界選手権の雰囲気を経験しておくことをお勧めします。

(茅野耕治)

Pre0 オープンクラス・Temp0 選手 木村治雄

自身 8 回目の世界選手権への参加を終えた。代表選手への憧れを抱きナショナルチームの合宿に参加した日からは、約 10 年が経つ。

最初の世界への機会は、フット 0 では叶うことのなかった全日本エリートクラスへの出場権をトレイル 0 でつかみ、日本で何位にまでなれるかを目指し始めた矢先、年度最後の試合で優勝し、思いもせず代表に選出された 2007 年であったが、初めての海外渡航であったそのときに取得したパスポートを、こんなにも何度も使用し、また今年も使うことができたことは光栄に思う。

そしてさらに使おうと考えた場合、期限切れになるまでに参加できるのはあと 1 回・・・。ただ、そのあと 1 回を選手として迎えるには厳しい状態にある。今回の結果を見れば。

ただ単に「できなかった」「失敗した」「うまくいかなかった」のではない。もしそれならば次はうまくいく要素がある。でもそうではなく、明らかに競技能力が衰えた。それは昨年すでに多少問題ある状態であったが、今年にはさらに顕著に出てしまい、対応できない

事柄が増えた。ずばり「目」がよく見えないのである。

これはこの競技をする者にとって大きいことは誰にでもわかる。ましてや自分は、常に手順を練習しておかないと読み抜けを生じる弱点があり、他の選手と伍していくには人より多く練習しないとダメで、その自覚から練習でまずライバルに追いついておき、さらに「見る」部分でフラッグの設置地点のまさに支柱の刺さっている部分の状況のみならず、周囲の草の伸びる方向なども個々にピンポイントで見極めて判断することで抜け出すプレースタイルだっただけに、目に頼る比率が大きくその能力低下の影響がなおさら大きい。

練習でカバーできるのは他選手と並ぶ技術的な考え方の部分までであり、それは努力しただけで何とでもなる。ただ他を上回るためのストロングポイントを得るには、自らの天性による能力を見つけ、それをうまく使えるかにかかっている。自分にとっては、それが「人よりもよく見えている部分がある」ことだった。でも、自分はそれが「使えなくなった」ようである。

今回はテレインがゴルフ場ということもあり、事前に国内のゴルフ場を 3 か所ほど訪れて、ゴルフ場独特の地形を確認するとともに、以前の見え方との変化に対する修正を試みたが、やはり見えなくなったものは見えないまま臨まざるを得ない状況は変わらなかった。

一方、ここ数年のうち、目以外の体調全般という意味では今年がもっともよかったといえる。3 年前は DAY 2 の前の夜に歯痛にともない熱を出し、2 年前は渡航 1 ヶ月前に脊椎内の腫瘍の摘出手術を受けての回復期、昨年は原因不明の脱力感やいらつき感があり、渡航先でめずらしく観光して気分転換を図るもいまひとつのような状態で、もう一度だけ体調万全の状態に参加したいという希望を持っていたなか、今回はそれを達成でき、そういった意味では満足している。

今後については、10 月の全日本選手権を目指して調整しており、年度いっぱいには試合での結果を求めた活動は続けることは決めている。

選手としての終わりが近づいているとは思いますが、しょせんアマチュアであり、引退などという大げさな話になるわけでもない。国内では未だ上位の成績もあげており、再び代表選手として選出されれば、また世界選手権には参加するつもりでいる。

以前の成績を上回ることがは難しい

かもしれないが、それでも、代表の枠内に入る結果を国内で残した者は、その国の競技レベルがどの位置にあるのか、世界が一同に会する場で競技し、示す義務を負っていると思うからである。

最後に、ここまでこのコメントを記してきて気づいたが、幸いにも自分が弱くなったのは、目の部分だけである。もともと視力は0.04であり、それをコンタクトレンズで矯正して競技しているのだから……。なら、これを取り替えれば……。目も元通り、競技力も元通り、となることを切に願っている。

(木村治雄)

PreO オープンクラス・TempO 選手 小泉辰喜

今回の世界選手権は、ザグレブに入った後の移動もなく、プレ大会から10日間同じ宿舎で、また、大会運営もスムーズで、Day 1を除いてスタートの遅延もなく、余計なストレスを感じることがなく、落ち着いて競技に臨むことができました。

トレインも、Day 1の林にしても、他の日のオープンテラインにしても、尾根、沢、コブ、独立樹といった特徴物が比較的わかりやすく、対応しやすかったと思います。特に独立樹や藪については、ブリテンで写真付きの説明があり、モデルイベントでもしっかり確認することができました。

ただ、PreOでは、国内の大会に比べて競技時間に対して課題数が多く(Day 1、Day 2それぞれ26課題で140分と130分)に対して短く、後半に時間を残さなければという意識が強く、時間配分がうまくできませんでした。

印象に残った課題としては、PreOではDay 2の5番で、プランナーの意図に見事に引っかかりました。TempOではキャンセルになった予選の8番で、こちらは川の対岸を見る課題があるだろうと予想していたとおりの課題がでたものです。

競技面では、TCへの誘導での傘の目隠しがすっかり定着しており、TCやTempOステーションでの地図の順番確認の切れ込みや、TempOでのパブリックステーションなどは国内大会でも活用できると思います。

(小泉辰喜)

PreO オープンクラス・TempO 選手 山口拓也

今回のクロアチア遠征の感想を一言で言うと、(日程的に)「非常に長かった」です。「今回の遠征は長いなあ」と思うことが2、3度ありました。でもそれは、いわゆる「間延び」したような悪い意味ではなく、とても充実していたという意味を持っています。それだけ得たものは多かったと感じています。

次回以降の世界選手権に向けて今回の遠征を(競技の部分だけに限らず)しっかり振り返り、

チームに展開していくこと、国内の大会に反映させていくことをやっていきたいと思えます。

(山口拓也)

TempO 選手 岩田健太郎

初めてのWTOCは非常に楽しく、有意義なものとなりました。

一番欲しかったTempOでの結果こそ、イメージが合わなかった前半にミスを重ねてしまい、2.5秒差で予選落ちという非常に悔しいものでしたが、対応できた後半の解答時間は世界と十分戦えるものだと感じ、今後の課題と自信を得ることが出来ました。

オープン参加したPreOでも、すべてのコントロールをコースセッターの意図を考えながら理論的に解くことを意識したり、代表選手の方に質問してアドバイスを頂いたりして、スキルアップを実感出来ました。

やはり世界大会はコースがよく練られていて、地図の精度も非常に良かったので、また行きたいと強く思いました。今回得られた感触を忘れずに、数少ない国内大会でも結果を出し、もう一度、そしてPreOでも世界に挑戦できるチャンスを掴みたいです。今回は本当にありがとうございました。

(岩田健太郎)

PreO パラリンピッククラス選手 高柳宣幸

PreO Day 1

前日の説明でコースは雨の影響で荒れているがコースの短縮はせず、時間を延長する事が決定された。

雨の中スタートして、タイムコントロールを終えて、コースに足を踏み入れたら、考えていた以上の荒れ道で、ゴールまで転倒しない事を考えて歩いた。車椅子の方を2、3人で介助していたのには頭が下がる思いだった。コース途中で、水分・飴を補給して、転倒もせずゴールした。

PreO Day 2

ゴルフ場のトレインで、ゴルフ場の一部を使用してモデルコースが組まれていた。一部立ち入り禁止テープが貼られており、その他は、立ち入り可となっていたが、どこまで入って良いのか戸惑う事があった。

この日は、日陰がなく暑いなか歩いた。遠方にあるポストが良く見えないのに苦労した。ゴルフ場のコースは、池や、バンカーありで楽しかった。

(高柳宣幸)